



▲第3回ワークショップの発表のようす

社会実験の成果を
ふりかえりました

● 公用地を実際に活用した結果をみなさんとまとめました！

公用地の活用方法について検討する3回目のワークショップを開催しました。昨年の11月に行った社会実験を振り返りながら、使ってみた手応えや課題など、皆さんが公用地を使ってみて感じたことを意見交換し、今後の活用方法を一緒に考えました。

1. 社会実験を通して、見えてきたもの

① 人と人のつながりが見えた

社会実験では、ワークショップ参加者や京都府立大学の大学生、地域の事業者など、地域内外の方々が一緒になって企画の立案から実践まで取り組んでいただきました。これは、今後の公用地活用に向けて、プレイヤーの発掘やネットワークづくりに期待が持てるものとなります。



② イメージの共有化ができた

普段は通り過ぎるだけの場所を自由に使い、にぎわいのある空間に変化させることで、「こんな使い方もできるんだ」と実感していただきました。公用地を実際に活用したことをワークショップの参加者や地域の方々と共有することは、今後のあり方を一緒に考える土台となります。



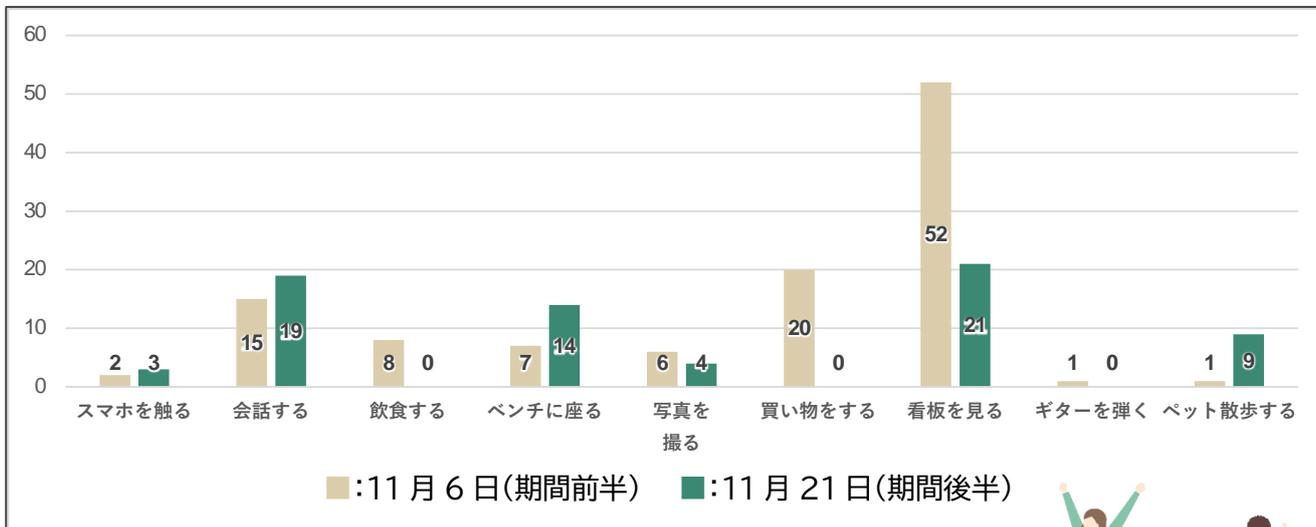
第3回 WS 実施概要

1月18日(土)：午後2時から4時
場所：長池公会堂（下図参照）



③ 立ち寄れる空間があることによる行動を「見える化」できた

11月の社会実験期間中、公用地の中でどのような行動をとる方々がいるのか調査しました。下グラフは、社会実験期間中の前半と後半に1日ずつ行動内容を記録したものになります。常設していたベンチに座って会話や休憩する方々が多く見られました。また、設置していた掲示板は公用地の前を通行する多くの方に興味をもっていただきました。



2. 次年度以降の取り組みについて

① 公用地を継続して実験的に使用する

次年度は年間を通して公用地を活用できることを目指し、広場の運用や管理体制を調整していきます。

『ワークショップ番外編』

令和7年3月15日に次年度の取り組みについて意見交換するワークショップを行いました。

② 使用ルールをつくる

公用地は駅前である一方、住宅地と隣接しています。近隣の方々に配慮して誰もがくつろぎ、楽しむことのできる場所にしていくためのルール作りを進めていきます。ルールは公用地を活用する皆さんと一緒に考え、使いながら改善していきます。



▲ワークショップ番外編の議論風景

③ 公用地に名前をつける

地域の方々に親しみを持って使ってもらえるよう、地域の皆さんと一緒に名前をつけられる企画を検討していきます。

昨年度のニュースのバックナンバー等が確認できます。

長池駅前 公用地 ワークショップ

検索



URL : <https://www.city.joyo.kyoto.jp/0000009567.html>

発行

城陽市 都市整備部 都市政策課 駅周辺整備係
TEL:0774-56-4070 Mail:toshiseisaku@city.joyo.lg.jp

